

進化する加古川 “まち” “道” “川”

2023年2月8日、加古川市が発表したJR加古川駅周辺まちづくり（案）については、そのイメージ図等を見た加古川駅周辺の商業関係者からは突然の発表に驚きと戸惑いの声が聞かれました。加古川市の担当者は「まちづくり（案）の内容は、これで確定というものではありません。今回、駅周辺の再整備に向けた議論を進めていく上で、あくまでも行政のたたき案として作成、公表したものです。具体的内容については今後実現に向けて関係者等と議論を重ねて決めていく」とのこと。時期に関しても「区分所有者との対話や検討会の動向、経済情勢など外部要因によっては十数年以上かかる可能性もある」と長期にわたる事業になると想定されます。現在、市内各所で道路や橋、公共施設の整備など大規模建設プロジェクトが進んでいます。数年先～十数年先にはまちの様子が大きく変わっているかもしれません。その中から主な事業についてご紹介します。

**まちが
変わる!**

JR加古川駅周辺



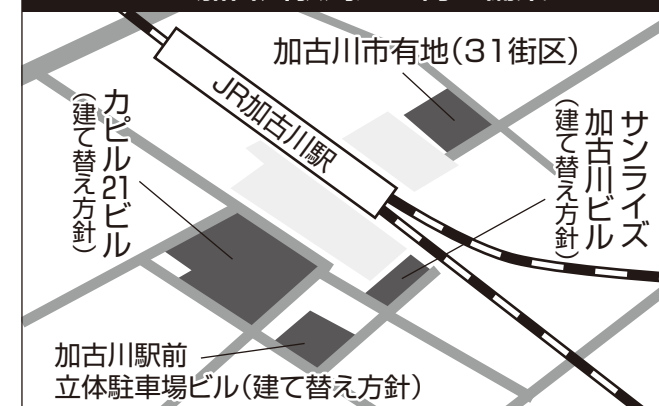
(注) 関係機関との今後の協議により変更の可能性があります。(資料提供:加古川市)

JR加古川駅は神戸・大阪へも通勤通学圏内で、周辺には商業施設や医療施設、学校・図書館などが集積し、加古川河川敷へも徒歩圏内であることなどコンパクトシティが形成されていることが強み。

一方、賑わいが足りないといった意見や滞在時間が短いといったデータもあり、若年層の転出超過も弱みとなっています。そこで、再整備案には老朽化したビルの建て替えだけでなく、駅周辺での賑わいを創出するため、人を中心とした歩きたくなるウォーカブルなまちを目指した考え方を取り入れています。

まず、駅北の市有地31街区は民間開発により先導的役割を期待、サンライズ加古川ビル、カピル21ビルなどの3つは建替を予定しています。サンライズ加古川ビルは医療機関や学習塾、飲食店やオフィス入居などを想定、カピル21ビルは商業施設の他、新たに市民会館を移転し、公共機能のさらなる集約や、利便性の向上を図り、駅前滞在の機会を創出する。中高層部にはマンションも建設する予定。

JR加古川駅周辺の再整備案



(注) 関係機関との今後の協議により変更の可能性があります。(資料提供:加古川市)

バスターミナルやタクシー乗り場、一般車の乗降場所などの駅前交通広場を再編（縮小）、都市部でトレンドになりつつある人中心の空間（ウォーカブル広場）を新設し、憩いの場所を提供するとともに、「かわまちづくり」と一体化したイベント開催スペースとしての利用を想定する。

ポイントはウォーカブルな(歩きたくなる)まち!



(資料提供:加古川市)

まちを歩くと道沿いのお店に寄りたくなるもの。「歩きたくなるまち」の空間を創り、ひとが歩くことで、滞在時間が長くなり、賑わい創出、飲食や購買など経済波及効果も期待されます。